

日本経済新聞

夕刊

10月18日
(金曜日)

発行所 日本経済新聞社
東京本社 電話(03)3270-0251
〒100-8085 東京都千代田区人形町1-3-7
大阪本社 電話(06)6943-7111
名古屋支社 電話(052)243-2311
西部支社 電話(092)2473-9300
電子版アドレス
<http://www.nikkei.com/>
購読のお申し込み
電話0120-21-4946
<http://www.nikkei4946.com>

日大などが新薬候補

日本大学医学部の福田昇教授と公益財団法人実験動物中央研究所(川崎市)の研究グループは、帝王切開などの手術後に体に残ってしまう傷痕をなくす新薬の候補物質を発見した。手術前にあらかじめ物質を塗っておけば、炎症を抑えて皮膚が盛り上がるような傷痕ができにくくなる。来年にも臨床試験を始めて早期の実用化を目指す。

手術後の傷痕は、皮膚

手術の傷痕 残りにくく

細胞の免疫反応が過剰に働くためにできる。傷を受けた細胞が遺伝子レベルで記録として残るため、年を取っても傷痕として残る。帝王切開や心臓などの手術を受けた人は体の表面に大きな傷痕が残る場合があり、精神的な負担になっていた。研究チームはこの免疫反応を弱める物質を見つ

来年にも臨床試験

けた。抗生物質から取り出した「ピロロール・イミダゾール・ポリアミド」(PIポリアミド)という化合物で、動物実験で効果を確認した。副作用も見られなかった。ただ、手術を受けてから時間が経過した傷痕は消すことはできないという。将来的に薬として使う場合には、手術を実施する前後に傷を付ける皮膚の回りに塗る軟こう薬を想定している。